

平和に近づく

多摩市立鶴牧中学校 1年 ^{おおた}大田 ^{みか}美楓

私は、今回の派遣を通してたくさんの人と出会いました。そして、全員が平和の尊さを知っていてたくさんの人に知ってもらおうと努力していました。私も広島で見て、感じた事を1人でも多くに伝え、平和の尊さを知ってもらおうと思いました。

1945年、8月6日、8時15分。広島に1発の爆弾が投下されました。それは、「リトルボーイ」と名づけられた原子爆弾でした。

私は、広島平和記念資料館で2人の女の子の日記を見ました。2人とも、前を向いて明るく過ごしていました。けれど、2人は亡くなりました。私は2人が何故あの時死ななければいけなかったのか不思議でした。

私は被爆者である高村さんに出会いました。高村さんは小さい時に被爆しました。そのため、私達にお父さんお母さんの話をしてくれました。そこから私にとって被爆者やあの日の出来事が遠くの誰かに起きた悲しい事ではなくなりました。目の前にいる人があんな別世界のような出来事を覚えていなくても経験しているという事実におどろきました。そしてそれを知ってもらおうとする姿が立派に見えました。

しかし、被爆者の人達はいつか語れる人はいなくなってしまう。そんな私達にずっと原爆の悲惨さを伝えてくれる方に出会いました。それは被爆樹木でした。私が出会ったユーカリの樹は真っ直ぐに伸びるはずがぐにやりと横に伸び、皮ははがれ、先っぽの葉は枯れていました。被爆したのは人間だけではなくて他の生き物もたくさん傷ついた事を改めて知りました。人の身勝手な争いのせいで関係ない生き物達も巻き込んでしまった事が私は辛く悲しかったです。そして、これからどんどん被爆者が減っていくなずっと原爆の悲惨さを伝えてくれる被爆樹木達に感謝しました。

家に帰った後、私は「折り鶴の少女」という本を読みました。主人公である禎子さんは被爆した10年後に原爆の放射線が原因で亡くなりました。禎子さんは亡くなった時12歳9か月で、私が12歳10か月なのでかなり親近感がわきました。禎子さんが亡くなった後、クラスメート達が募金を呼びかけ「原爆の子の像」を建てました。この時私はクプカの方々の言っていた「微力だけど、無力じゃない」を思い出しました。1人1人の力は微力ですが、たくさんの人達の力で「原爆の子の像」を建てる事ができました。

平和は当たり前ではなくて、今壊れてもおかしくないということを今回の派遣で改めて知る事ができました。現に今、地球上には1万発以上の原爆があります。このような中、平和の大切さ、尊さを理解して、平和に感謝する人が1人でも増えたら世界は少しだけ平和に近づけると思えます。そして、私がその1人を増やしていきたいです。